1. 調査報告概要表

作成日 平成 20年 5月 7日

【評価実施概要】

事業所番号	1271300525
法人名	有限会社　正心
事業所名	グループホーム　せいしん
所在地	千葉県野田市中根207 （電　話）04-7125-7165

評価機関名	株式会社　日本ビジネスシステム
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8
訪問調査日	2008/5/1

【情報提供票より】（20年4月1日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成　16年　1月　1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9　人
職員数	17　人	常勤　5 人，非常勤　12人，常勤換算　4.4人	

（2）建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り
	3 階建ての　1 階 ～ 2 階部分

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	60,000　円		その他の経費（月額）	20,000　円
敷　金	有（　円）		○無	
保証金の有無 （入居一時金含む）	○有（120,000円） 無		有りの場合 償却の有無	有／○無
食材料費	朝食	300　円	昼食	455　円
	夕食	455　円	おやつ	124　円
	または1日当たり		円	

（4）利用者の概要（ 4月 1日現在）

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1	名	要介護2	0	名
要介護3	4	名	要介護4	1	名
要介護5	3	名	要支援2	0	名
年齢　平均	75 歳	最低	53　歳	最高	88 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	小張総合病院、中本医院、渡辺デンタルクリニック

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

玄関には、季節の草花が植栽され和やかな雰囲気となっている。建物の1･2階がグループホームとなっており、入居者が思い思いの場所でくつろぎ、生活できるような構造になっている。「人　そのために」の理念のもと、入居者優先、さりげない支援の実践に取り組んでいる。入居者とのコミュニケーションを重要視しており、会話や日々の生活から本人の希望や思いを汲み取り職員全員で情報を共有している。入居者の生活状況が詳細に記録され、職員間で話し合いながらその都度その人に即した介護の実践に努めている。家族、市、病院等必要関係者と密に連絡を取りながら適切なサービスの提供や業務の質の向上に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）

前回の外部評価においては、結果を事業所内に掲示し、周知をしていると共に、職員で検討の上改善を図っている。

今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）

自己評価の作成においては、職員全員で話し合い管理者が作成を行っている。

重点項目②

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）

入居者、家族、地域住民、市職員、施設職員を構成員として6ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。会議では、施設の活動報告や意見交換等を行い施設の理解促進や交流の場として活用している。今後は、多くの人が参加してもらえるよう検討している。

重点項目③

家族の意見、苦情、不安への対応方法･運営への反映（関連項目：外部7，8）

意見や要望等を言いやすい雰囲気作りに努めていると共に、民生委員にも苦情窓口となってもらっている。随時家族からの意見や要望等を確認している。挙がった意見･苦情に対しては、事業所内に掲示し多くの人から意見がもらえるよう工夫しており、適切な対応に努めている。

重点項目④

日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）

散歩等で外出した際に近隣住民とは挨拶を交わす関係が築かれており、ご好意でおすそ分けを頂くこともある。地域のお祭り等に参加し交流を図っている。また、併設の高齢者アパートの住民との交流を通じて施設の活性化に努めている。

2. 調 査 報 告 書

（ ▒ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「人　そのために」と言う事業所独自の理念を掲げ、その人らしい生活を送れるように入居者の気持ち、希望を優先させたサービスを目指している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を事業所内に掲示していると共に、理念に基づいた指導を行い、職員全員へ周知徹底を図っている。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩等で外出した際に近隣住民とは挨拶を交わす関係が築かれており、ご好意でおすそ分けを頂くこともある。地域のお祭り等に参加し交流を図っている。また、併設の高齢者アパートの住民との交流を通じて施設の活性化に努めている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価においては、結果を事業所内に掲示し、周知をしていると共に、職員で検討の上改善を図っている。自己評価の作成においては、職員全員で話し合い管理者が作成を行っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者、家族、地域住民、市職員、施設職員を構成員として6ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。会議では、施設の活動報告や意見交換等を行い施設の理解促進や交流の場として活用している。今後は、多くの人が参加してもらえるよう検討している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護課、福祉課へ業務における相談等を行い、市との連携を図っている。また、市の研修資料等を送付してもらうなど協力を得ている。2ヶ月に1回介護相談員が来訪し、入居者や職員の相談や対話に応じてもらっている。		
4．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	電話や家族の面会時に入居者の生活状況や健康状態等を報告している。行事等の写真を手紙に同封し送付する等、入居者の暮らしぶりを詳細に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望等を言いやすい雰囲気作りに努めていると共に、民生委員にも苦情窓口となってもらっている。随時家族からの意見や要望等を確認している。挙がった意見･苦情に対しては、事業所内に掲示し多くの人から意見がもらえるよう工夫しており、適切な対応に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入職する前に、半日から1日働いてもらい入居者の様子や他職員の意見等を確認してからの採用となっている。入職後は入居者とコミュニケーションを取りながら馴染んでもらうような体制を作っている。		
5．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市の研修資料をもらい職員全員が閲覧していると共に、会議や日頃の業務の中で介護方法の指導等を行い職員の質の向上を図っている。入居者の個別ファイルに薬や病気の解説･知識等の資料を綴じ、適切なサービスの提供に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームの連絡会等は、互いの業務の都合上開催されていないが、電話にて連絡や相談のやりとりを行い、情報交換を行っている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に見学を行い、希望に応じて体験入居をしてもらうことにより、施設の雰囲気や方針を理解してもらっている。面談の機会を多く設け、本人や家族とのコミュニケーションを図り、入居前から顔馴染みの関係を築いている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	理念に基づき入居者の気持ちや希望を最優先に考え、共に支えあい生活する関係を築いている。職員は入居者から人生観や人生経験を学んでいる。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の面談を通じて家族から意向や生活暦等を聴取している。本人からは日頃の会話から意向や生活暦を確認し、職員全員で情報を共有している。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	担当者会議や面会等を通じて家族と職員が話し合った上で介護計画を作成している。家族や本人の希望、介護方法等を詳細に記入して全員に周知し、その人にあったサービスの実践に努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	生活状況に変化があった場合、必要と判断した場合にその都度見直しを行っている。担当者会議や面会等を通じて家族と職員が話し合った上で介護計画の作成している。家族や本人の希望、介護方法等を詳細に記入して全員に周知し、その人にあったサービスの実践に努めている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の入院時の生活支援や通院の付き添い支援を行っている。緊急入所の受け入れを行っている。車椅子の貸し出しや介護相談の受付を行い、地域貢献をしている。退所した方にも連絡を取る等、その後の関係作りにも努めている。		
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院以外にも、希望の掛かりつけ医の受診が可能となっている。通院においても希望に応じて付き添いを支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族の意向を汲み取りながら、継続的な医療行為が必要になるまで、施設での生活ができるよう支援している。重度化した際は、医師、家族、職員で相談や連絡をしながら本人や家族の意向に沿った終末期の支援を行っている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1．その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報は所定の場所にて管理し、個人情報保護に努めている。入居者の尊厳を尊重した言葉遣い、接遇を心がけ入居者のプライバシー保護に取り組んでいる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の日課は定めておらず、入居者のペースや希望に沿った生活を支援している。希望を言いやすい環境作りに努め、日頃の会話の中から本人の希望や生活暦を汲み取り、考慮した上でその人らしい生活を送ってもらっている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や調理、配膳等を希望に応じて共同で行っている。献立作成、食材調達においては業者に依頼している。週1回自由メニューの日に定め、入居者の希望に応じた食事を提供している。また、希望に応じて個別に外食に出かける等、食の楽しみを支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日実施しており、希望に応じて時間や回数等柔軟に支援している。浴室には、転倒防止マットやヒーターが設置され、安全に配慮している。入浴拒否に関しては、声掛けや時間の変更等にて対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事等の生活活動は希望や能力に応じて共同で行っている。入居者の希望に応じてレクリエーションや外出等の支援をしており、その人らしい生活が送れるよう努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の天候や本人の希望に応じて、日々散歩支援を行っている。また、買い物や外食等にも出掛けており、戸外での楽しみを支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠せず、自由な生活を支援している。ドアにベルやチャイムを設置しており、入居者の状況を把握している。入居者が外に出た場合は、声掛けや見守りにて適切な対応を行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時マニュアル等を掲示している。地元の消防署の協力のもと、避難訓練や心肺蘇生の講習を行っており、緊急時・災害時の対策を講じている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	能力に応じた食事提供がなされていると共に、水分･食事の摂取量を記録している。摂取量が不足している場合は、好みの物や提供時間の変更等にて対応しており、必要な栄養の確保がなされている。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1階ﾘﾋﾞﾝｸﾞは広く、椅子･テーブル･コタツ等が配置されくつろげる環境となっている。2階のﾘﾋﾞﾝｸﾞ･廊下等の共有スペースには、入居者の塗り絵や習字の作品、写真等が掲示されている。廊下の手すり、浴室の転倒防止ﾏｯﾄ･ﾋｰﾀｰ等入居者の安全面に配慮した施設作りがなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の希望に応じて馴染みの物を自由に持ち込むことが可能となっており、居心地良く過ごせる環境作りがなされている。全居室にエアコンが設置されており、適切な空調管理がなされている。		